

# 慈雲

36号

2015/6

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る  
百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



如來世尊  
在昔之時  
恒遣阿難  
來慰問我

## 【『觀經』の言葉】

如来世尊、在昔の時、  
恒に阿難を遣わして来  
らしめて、我を慰問し  
たまいき。

韋提希夫人は、幽閉さ  
れているところから耆  
闍崛山におられるお釈  
迦さまに向かつてこの  
ように言いました。

この「在昔」について  
善導大師は二つの意味  
があると言われます。一  
つは、夫である王がまだ  
禁ぜられる前は王と夫  
人は二人でお釈迦さま  
の元に通つたり、また宮  
殿に招いて説法をして  
もらいました。二つめは  
王が禁ぜられてのちお  
釈迦さまは憂悩の夫人  
のために阿難を遣わし  
て慰問させて下さいま  
した。それも今は夫人が  
幽閉されてしまったの  
で適いません。そのよう  
な「むかし」にくらべ今  
の痛ましい様子が浮き  
彫りにされるようです。

今回は

凡聖逆謗齊回入  
如衆水入海一味

の一行二句を学びます。

「凡聖、逆謗、ひとしく回入すれば、衆水、海に入りて一味なるがごとし。」と読みます。

「凡」は凡夫のことです。凡夫とは仏教の教えを理解していない人であり、したがって世間のことで一喜一憂している者のことです。凡愚ともいい、日常生活の中で煩惱に明け暮れている私たちのことです。

「聖」は聖者です。聖者は仏教の道理を理解し身につけた人であり、菩薩とも呼ばれます。凡夫と聖者とは相対する存在であります。

「逆」は人倫や仏道に逆らう者のことで、五逆罪がその代表です。

五逆罪とは母を殺す、父を殺す、阿羅漢（聖者）を殺す、仏身から血を流す、和合僧（教団）を破壊するというものです。

「謗」は誹謗正法の事であり仏教を謗ることです。最も重い罪であるといわれます。

これら様々の機類の衆生がひとたび自我の心をひるがえして本願に帰入すれば、汚れた川水が海に流れ込んで一様に清らかな海水になるようなものであるという意味です。

我が身に引き当ててみると、凡夫であることは頷けますが、もちろん聖者ではないと思っけています。五逆や謗法を犯した覚えはないと思っけています。よく考えてみると、親に向かつて逆らったことはいくらでもありますし、仏法を心から信じているかといわれれば、ハイとは言えないものがあります。それは、疑いでありまぎれもなく謗法にあたります。

このように考えてみますと、誰もが縁次第でどのような事をもしてしまいう存在であることがわかります。

しかし、実はそのような人間が仏さまから呼びかけられているのであり、本願のお目当てなのです。そのことに気づいたとき、五逆は五逆のところ、謗法は謗法のところ、その呼びかけの声を聞くことができるのです。そのとき、齊しく仏弟子の位を賜り、仏の世界であるお浄土に入る事ができます。

その様子を喩えているのが二句目です。凡夫や聖者、五逆や謗法の者をおおくの汚れた川にたとえて、それらの川水が本願の大きな海に流れ込めばみなひとつの味わいになると言われているのです。

私はこの「皆がひとつの味わいになる」ということがなかなか受け取れませんでした。

私たち人間は、それぞれ顔も姿も違いますし、また一人ひとり考えも違います。それがみんな同じになるという事が親鸞聖人の教えらしくないと思えたのです。

しかし、縁によっては親をも殺し、仏法をも謗することもあるこの私を救おうという本願だったと気づいてみれば、私と仏さまの間の関係だけでなく、すべての人や物事が私の為だったと受け取れたのです。「ひとつの味わいになる」とはみなが同じ考えになるとか、同じく善人になるといふことではなく、善人も悪人もそれぞれの機類のまま、お念仏に出会うところで通じ合い、通い合うのです。その大きな世界を「海一味」と讃えておられるのです。

## 【易行風】

最近、色々なことがあり、「時間」と「ご縁」について考えることが多くなりまして。私の専門は「時間」と「空間」の方なのですが…。

「時間」というのは今のところ人類の科学で自由にできないものです。過去に戻ったり、未来に行ったりはできません。過去に戻れば、今問題の歴史認識をはつきりさせて、諸外国とも仲良く出来るのでは？ 未来に行ければ、善いことは続け、悪いことを改められるのでは？ そう思えるのです。しかし、一秒前と一秒後、ほとんど変わらない過去と未来ですが、これすらも自由になりません。

### 覆水盆に返らず

まさにその通りです。

時間の自由移動が可能であれば、はか 図らずともそこに自力が作用する。しかし、

たりき 他力を受け入れるしかない。この時間の流れこそ、私たちが一番理解しやすい阿弥陀の働きではないでしょうか。

慈雲会の世話方をさせて頂いて、瑞蓮寺のご門徒さん以外にも、他の寺院の御住職・坊守・ご門徒の方々と多くのご縁が出来ました。

そのご縁で多くのことを教えて頂き、自分の知らない世界、思いもよらない考えを学ばせて頂いております。

しかし、ご縁が広がるということは、悲しいご縁も増えることとなります。近親者・大切な人を亡くされた方、余命宣告を受けられた方。正直なところその様な方々とどう接してよいかわかりません。

へんな慰めはもつてのほかですし、なぐさ 気休めを言っても事実はかわりません。幸い私のまわりの方々が自暴自棄になられた方はおられません。内心はどうでしょう。どれほど、教えを学んでも内心穏やかにいられるでしょうか。そう思うとどうしてよいかわかりません。

私には、本当の苦しみに直面している人に学んできた教えを伝えることが出来ません。普段、聞法し、座談しているときは、思いを伝え話し合い学び研鑽できるのですが。

そう考えると、ここにも「気の毒」「かわいそう」などと言う自分の物差し（自力）が働いていることを思い知らされます。「なにかしてあげよう」そう思い、気遣ってあげること、これは大切なことだと思えます。しかし、思い直してみると、これもまた自力の働きではないか、そう思えてきたのです。

そして自分はどうすべきか考えたときに、「時間」を朋ともに歩むことではないか、と今はそう思っています。

●●●  
それぞれの関係に見合った場所で朋に「時間」を歩むこと。近親者であれば自おのずとその場所は近くなりません。悲しいご縁の方々だけでなく全ての人に対し、今その人はどうしているか。そう考えていると、他力によつて自然と成すべきことが成されるように思えます。

これから先も、多くの出遭いと別れのご縁が広がって行くと思えます。しかし、その「ご縁」と「時間」を朋に歩んで行くかと思えます。

## 【お磨きのお知らせ】

仏具のお磨きをします。皆様ふるって御参加下さい。

六月十日（水）午前九時より

## 【瑞蓮寺同朋の会のお知らせ】

昨年引き続きまして同朋の会を開催いたします。本年はお寺の中だけではなく外にも出かけて行き、学びを深めたいと思います。

・六月六日（土）総会所にて法話を聞く

東本願寺の総会所が本年六月に閉所され、以後は「真宗教化センター しんらん交流館」へ引き継がれます。そこで、最後となります総会所へ皆様で法話を聞きに行きたいと思い企画しました。

時間 午後一時四十五分

場所 東本願寺総会所

集合 現地集合

（場所がご不明な方はお尋ね下さい）

・七月四日（土）瑞蓮寺にて法話を聞く  
瑞蓮寺で御住職により親鸞聖人と越後の七不思議についてお話して頂きます。

時間 午後二時

場所 瑞蓮寺

八月は予定されていません。

九月以降の予定は次号の慈雲でお知らせいたします。

同朋の会の一環として、「写真コンテスト」を開催しております。

テーマ

「私が見つけた京都！」

応募資格 瑞蓮寺ご門徒及びご家族

提出形態

①プリント（写真） ※

②メールでの応募

※キャビネ以上がおすすめですが指定はありません。

注意事項

①作品応募点数に制限はありません。

（但し、選考作品はお一人様一作品に絞らせて頂く場合があります）

②被写体の肖像権・著作権には十分注意を払って下さい。

③ご応募頂いたプリント（写真）は返却できない場合もあります。

応募方法

①プリント

後記の必要事項を記入した用紙を添えて、御住職がご家庭にお参りに行かれた際にお渡し頂くか、瑞蓮寺へお持ち下さい。

②メール

後記の必要事項を記入したメールにデータを添付して

shot@zuirenji.net  
まで送付下さい。

必要事項

- ①氏名
- ②住所（瑞蓮寺登録と異なる場合）
- ③電話番号
- ④作品タイトル
- ⑤作品説明
- ⑥撮影場所
- ⑦撮影時期

応募期間

平成二十七年十一月下旬まで  
メールの場合は十一月中旬まで

## 【編集後記】

雨の多い春でしたが、皆様如何お過ごしでしょうか。先日、花園・妙心寺の三門が特別公開されましたので、拝見してまいりました。通常は「山門」と言うようですが、妙心寺の場合「三門」と言い「空門」「無相門」「無作門」の3つの悟りの境地をあらわす三解脱門の略称だそうです。京都に住んでいるのに、今までこの様な場所に行ったことがなく、清水寺も最近初めて行きました。皆様は色々なところへお出かけと思えます。お勧めの場所があれば教えてください。慈雲でもご紹介したいと思います。

長塩浩史

瑞蓮寺のホームページができました。

<http://www.zuirenji.net/>